

談・神戸学院大学
人文学部教授
住友 則彦
NORHIKO SUMITOMO

ナマズの百葉箱。

「渦巻状の雲を見た」「カラスが騒ぎ、犬が吠えた」「二重の虹がかかった」「ナマズが暴れた」「耳鳴りがした」。大きな地震が起きた直後、こんな話を聞いた人、実際に体験した人は多いのではないだろうか。地震の前兆と言わ

異常現象をまじめに研究したり、利活用を考える学者が増えてきました。私もどちらかと言えばその一人ですね」

住友教授は京都大学で30年近く地震予知の研究を行ってきた。地震の前には、地磁気に変化が現れたり、異常電流が発生したりする。それらを科学的に観測・分析し、地震を予知しようとしたのだ。ところが、やればやるほど難しさを思い

知らされた。一番痛切に感じたのは、自分を含め地震学者の誰も阪神・淡路大震災を予知できなかったことだった。

「30年間の地震予知へのアプローチは間違っていない。けれど、それだけでは地震予知はできないと悩んでいました。若い人たちは、地震学の基礎からやり直すと言ってほとんどんそちらの方へ行き始めました。その様なとき、たまたま、神戸学院大学人文学部から人間行動学科へ来ないかと誘いを受けました。こちらへ移ってみると『地震防災フロンティア』を立ち上げるので協力願えないかという話が出てきました」

「今まで理系の人間として、理系の仲間と一緒に研究してきた人間が文系の中でうまくやれるか不安でした。しかし、話し合ううちに心理学や社会学、歴史学など文系の先生方と連携し、知恵を出し合うことで、直ちに地震予知は無理としても、地

震に関連する色々な情報を集め、整理し並べて公開する事によって、地域の地震防災に役立たせることが出来るかもしれないと考えたんです」「これまでのように人間不在の地震予知研究では駄目だと気が付いたのでです」

現在、住友教授は人文学部の同僚とプロジェクトを進めている。

「兵庫県南西部にある山崎断層は活動が予測されています。国レベルでは地方の活断層の観察まで手が回らない。そこで、山崎断層の周辺の住民に呼びかけ、観測異常を含む、地電流や井戸水など様々な観測をしてもらい、何らかの異常を発見したら携帯電話やインターネットで通報してもらい、その情報をリアルタイムでサイト上に公開するネットワークを創りたい。同時に、周辺の小・中学校等にナマズの百葉箱を設けたい」

「ナマズの百葉箱」は住友教授のネーミング。気温、地温、自然電位差などが簡単に計れる機器をコンバクトにまとめた箱だ。将来は簡易の地震計も入れた。それを校庭に置き、毎日、大地や大気の様子を観測させる。地震に対する子どもたちの意識が高まり、理科教育にもつながる。

「山崎断層だけではない。日本人は誰もがどこかの活断層の上で生活しています。日頃から観測現象や地震関連の情報を住民が共有し、自分で判断することによって、自分の身や家族を地震から守っていかねければならない。もちろん、実際にネットワークを創るためには地域社会や教育機関の協力が必要です」

手を携えて地震が来るのを待っているのではなく、地域住民と大学が一体となって地震に備える。文理一体のこのプロジェクトに、住友教授は地震予知への新たな可能性を感じている。



神戸学院大学

【法学部】法律学科・国際関係法学科 【経済学部】経済学科・国際経済学科 【経営学部】経営学科(2004年4月開設)
【人文学部】人間文化学科・人間行動学科・人間心理学科(2004年4月開設) 【栄養学部】栄養学科 【薬学部】薬学科・生物薬学科
【大学院】法学研究科・経済学研究科・人間文化研究科・栄養学研究科・薬学研究科・食品薬品総合科学研究科
【法科大学院】(2004年4月開設予定 設置認可申請中)

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518 TEL.078-974-1551(代)
URL <http://www.kobegakuin.ac.jp>

4つの「新しい」始める。

- 法科大学院(設置認可申請中)
- 薬学研究科 医療薬学専攻
- 経営学部 経営学科
- 人文学部 人間心理学科

2004年4月
同時開設

2005年4月開設予定
申請作業中

総合リハビリテーション学部
医療リハビリテーション学科・社会リハビリテーション学科